

基準6_学習成果

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
平成24年度	◎ 標準修業年限内の卒業率は、特に学部卒業生の約80％を占める3年次入学者において高く、また、修了生受入企業アンケートでは、企業が見る修了生像として、「現実を重視する問題解決型のスペシャリスト」等が挙げられ、問題意識が高く専門知識もしっかりしている等の高い評価が得られている。（長岡）	○ 「英語力」については、プレースメントテストでのクラス分けに応じた学習、TOEICの試験機会の増加、理工学に直結した教育課程の開発等の取組を行っており、その成果については今後の向上に期待したい。（長岡）	
	◎ 標準修業年限内の卒業率は、特に学部卒業生の約80％を占める3年次入学者において高く、また、企業に対して行ったアンケート結果から判断して、産業界のニーズにこたえる人材を極めて多数送り出している。（豊橋）		
	○ PBL型教育において学生が取り組んだプロジェクトの成果が、企業や自治体との連携事業や特許出願等につながっている。（産業技術）		◎ 修了生に対する体系的・組織的な意見聴取が行われていない。（産業技術）
平成25年度	◎ 卒業予定者や卒業生に対するアンケート、授業評価アンケート等、学習成果を検証するための取組を積極的に行っている。（室蘭工）		
	○ 就職希望者の就職率が高い。（弘前） ◎ 各種国家試験の合格率が高い。（弘前）		
			○ 就職先の関係者及び卒業生・修了生からの意見聴取について、組織的で系統的な取組が必要である。（岩手）
	○ 医師国家試験合格率は、平成14年度以降10年にわたり高い合格率を維持している。（山形）		
	◎ 学生の自主的な参加による外部のコンテストの成績が極めて優秀である。（東京外語）		
	◎ 博士の学位取得者について、キャリアの多様化・明確化を図るためにキャリアパス支援センターを設立し、ノンアカデミック・キャリアパスの開拓に取り組んでいる。平成21年度からはアグロイノベーション高度人材養成センターに引き継がれ事業が行われており、全国6連合農学研究科を含む全国の国公立大学から養成者を募集し、多くの人材を産業界等へ送り出している。（東京農工）		
			○ 一部の学部において標準修業年限内卒業率が低い。（京都）
	◎ 平成18年度から学部・大学院・専攻科を卒業・修了した者を対象にアンケートを開始し、平成24年度には、卒業・修了後、5年、10年、15年、20年を経過した者を対象にアンケートを実施している。（大阪教育）		
	◎ 平成20年度より平成25年5月に至る間に学士課程、博士前期課程及び博士後期課程学生が国内外の多様な学会から受賞しており、また、講談社文学賞（第46回メフィスト賞）等も受賞している。（奈良女子）		
	○ 平成22～24年3月学部卒業生の教職就職率が、44の国立の教員養成大学・学部（教員養成課程）中、最も高い実績を残している。（鳴門教育）		
平成26年度	○ 修了確定者を対象とするアンケートの結果で、博士前期課程では94.0％の学生、博士後期課程では92.0％の学生が、「本学の課程は有意義だったか」との問いに対し、「とても有意義であった」又は「有意義であった」と回答している。（北陸先端）		
	◎ 平成22年度の包括外部監査の結果に関する報告書によれば、「世界無形文化遺産「組踊」の若い伝承者の大半が県立芸大の出身者であるなど、芸大が輩出した人材が芸術文化の継承・振興・発展に係る活動に数多く関わっている」とされている。（沖縄県立芸術）		
	○ 道東地域において、地域医療への貢献状況が著しく伸長している。（旭川医科）		
	◎ 人文社会学群夜間主コース（現代教養コース）については、就職率・就職者数共に、平成23年度以降は、それ以前に比較して大きく伸びている。（福島） ○ 卒業（修了）生や就職先への意見聴取、アンケート調査の結果から判断して、学生は就職先において「学問的思考の基礎」「幅広い教養」「自ら学修する習慣」「大学で学んだ専門知識」に優れた人材として、評価を受けている。（福島）		
	◎ 博士後期課程においては、毎年入学定員と同程度の人数が学位を取得し、教育研究分野のみならず専門性を生かしたノンアカデミック分野を含む多様な職種に雇用されている。（東京海洋）		
	◎ GPAを卒業要件とした年度以降に入学した学生の累積GPAは、平成22年度入学の学生から25年度入学の学生と進むにしたがって上昇しており、学習量の増加及び学習成果の向上が確認されている。（一橋） ○ 法科大学院は、毎年高い司法試験合格率を維持し、顕著な成果を上げている。（一橋）		

基準6_学習成果

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
	◎ 教員養成のための教育課程改善等をめざして、卒業（修了）生を対象とした調査研究に積極的に取り組んでいる。（愛知教育）		
	◎ 大学の教育目標である「感じる力」「考える力」「コミュニケーション力」及び「生きる力」の「4つの力」に関する修学達成度評価を経年的に行っている。（三重）		
			○ 卒業（修了）生に対する継続的・系統的な意見聴取が望まれる。（宮崎）
	◎ 国際大会でメダルを獲得する水準まで、実技能力に関して学習成果が上がっている。（鹿屋体育）		
	◎ 教育職員免許状、図書館司書、博物館学芸員をはじめ、衣料管理士、管理栄養士、精神保健福祉士等の専門性に直結する資格を多くの学生が取得し、卒業後のキャリアに活かしており、特に1級衣料管理士資格取得者は毎年30人以上にのぼり、平成23年度に日本衣料管理協会から表彰を受けている。（大妻女子） ○ 全大学院学生による合同の修士論文発表会の開催、人間文化研究所による大学院学生に対する研究助成制度の導入等、学位論文の質を維持するための方策が一定の成果を得ている。（大妻女子）		
平成27年度	◎ 学部卒業生に対するアンケートによると、「多様な価値観を理解し、尊重する力」や「人間関係の構築力」を始めとして、様々な能力が大学在学中に身に付いたと考える卒業生が多い。また、採用企業に対するアンケートにおいても、「専門分野に関する知識」や「情報収集・分析能力」等多くの項目について卒業生が有する能力等が評価されている。（北海道）		
	◎ 就職支援室では、専門職員を配置して戦略的かつ積極的な就職支援を推進し、学部卒業生の県内就職率は約50％であり、地域社会からの人材供給という期待に応えている。（福井）		
			◎ 学士課程の一つの学部において、標準修業年限内卒業率が低い。（大阪）
	○ 地域課題の解決に向けた社会貢献活動の推進を大学憲章に掲げる大学として、地域への人材提供の役割を果たしている。（島根）		○ 全学的には、卒業後一定期間が経過した卒業生に対する継続的なアンケートや意見聴取を行っていない。（島根）
	◎ 同窓会組織との連携によるキャリア教育などの取組により、学部卒業生、大学院課程修了生ともに就職希望者に占める就職者の割合が、平成22～26年度の平均で98％以上という高い就職率を維持している。（九州工業）		
	○ 文化教育学部美術・工芸課程の学生が全国的美術展等において例年数多くの受賞・入選を果たしている。（佐賀）		
	◎ 社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験合格率が全国平均よりも大幅に高い。（大分） ◎ 平成26年度卒業生の県内就職率は43.3％であり、大学の目的に掲げる地域の発展に貢献するため、地域社会へ人材供給を行っている。（大分）		
	◎ 看護師、保健師、管理栄養士、社会福祉士、理学療法士、作業療法士等の国家試験において高い合格率を維持している。（神奈川県立保健福祉） ◎ 就職者の約3分の2は神奈川県内に就職しており、公立大学としての使命を十分に果たしている。（神奈川県立保健福祉）		
	◎ 中国・四国地域への就職者が約50％を占めており、地元の発展に貢献できる人材を育成している。（尾道市立）		
	◎ 平成21年度に開設した地域創生学群は、卒業生を輩出した平成24年度から3年連続で就職率が100％となっている。（北九州市立） ○ 学位授与方針に示される学生が身に付けるべき能力について、卒業時の到達度の調査や卒業生の就職先のアンケートによる修得率の評価等を通して、学習成果の把握に努めている。（北九州市立）		
	◎ 社会福祉士国家試験の合格率や福祉現場への就職割合が高く、大学の目的に沿った人材を社会に輩出するなど、学習成果が上がっている。（日本社会事業） ◎ 大学院課程の修了生においては、社会福祉分野への就職割合が高く、特に博士後期課程では教育研究機関へ多くの人材を輩出しており、社会福祉の専門職教育に学術的に貢献している。（日本社会事業）		

基準6_学習成果

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
	◎ 起業を志望する学生は全員が起業を実践し、起業した会社も情報通信研究機構が主催する「目指せ、情報通信ベンチャー日本一！」ビジネスプランプレゼンテーションや、大学発ベンチャー表彰2015において表彰を受けるなど高い実績を残している。（光産業創成大学院）		
平成28年度	◎ 開学以来、卒業（修了）生の就職率が100%に近く、就職実績において優れている。（秋田県立）		
	◎ 大学での学習によって身に付けた専門性を活かすことができる職種に多くの学生が就職している。（前橋工科）		
	◎ 学部卒業生及び大学院博士前期課程修了生の就職率が高い。（石川県立）		
	◎ 県内及び隣接する県への就職率が高く、地域に貢献できる人材の育成に成果を上げている。（静岡文化芸術）		
	◎ 卒業生・修了生の県内就職率は高く、地域社会へ人材供給を行っている。 ◎ 保健福祉学部における看護師、保健師、助産師及び社会福祉士国家資格試験合格率高い水準にある。（岡山県立）		
	◎ 就職率が高く、就職先において在学中に身に付けた資質・能力についての評価も高い。（福山市立）		
	◎ 過去5年間の社会福祉士、精神保健福祉士、看護師及び保健師の国家資格試験の合格率高い。 ◎ 県内及び周辺県への就職率が高く、地域に貢献できる人材の育成に成果を上げている。（福岡県立）		
	○ NP（Nurse Practitioner）コースの修了生は、修了後も大学からフォローアップを受け、活動の成果を雑誌や学会で発表している。（大分県立看護科学）		